



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2007.3

No. 275

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



さきたま古墳公園とその周辺の野鳥

内藤義雄(鴻巣市)

《 はじめに 》

行田市「さきたま風土記の丘」(さきたま古墳公園)での第1回目の探鳥会が行われたのは1993年2月です。そのときの『しらこぼと』の案内には、「県名発祥の地での初めての探鳥会、水鳥の埴輪も出土した古墳の周辺をのんびり巡ります」とあります。以来、春・秋の年2回の開催で13年間続いています。

《 探鳥会のコース 》

鳥相としては、埼玉県の低地の一般的な鳥が生息しているという地域です。でも、春の墳丘に緑が萌える頃や、秋の高い空のもと陽光に柿が映える頃、古代の人々の遺構・遺物に思いを馳せ、鳥を見る楽しさ、これは他では絶対味わえない最大の魅力なんです。

探鳥会は公園の一角にある「さきたま史跡の博物館」まへのレストハウスを起点として、県名発祥の碑、移築古民家の庭先、奥の山古墳から前玉(さきたま)神社へと古墳の周囲を歩きます。周辺の田や水路、旧忍川なども見ていきます。天空にも目を向けてオオタカなどの猛禽類をさがします。海拔35m余の丸墓山古墳の頂に登ることもあります。鳥合わせを丸墓山古墳前の広場で行なって、定番の約2km、2時間半のコースを終わります。

《 この地の環境 》

古代この地は、「埼玉の津(港)に居る船の…」、「埼玉の小埼玉の沼に鴨ぞ羽根きる(羽ばたく)…」などと万葉にも歌われ、また水鳥の埴輪の出土などで、かつては沼沢・入江の地であったと考えられています。公園の近傍にある「古代蓮の里」、県の浄水場・貯水池は近年まで小針沼であったところです。

失われた沼沢に代わり、今は古墳の小さな堀がカモや水鳥の生息域となっています。毎年1月のカモ科調査では、最高で1300羽余がカウントされています。

現在、さきたま古墳群は国指定の史跡の公園として、古墳の復元や整備が行われてきています。低湿地では表土が乾燥に転じてきているところも在ります。鳥が生息する環境は短い期間にも変化してきました。

しかし、公園はもとより、周辺にも足を延ばし、春夏秋冬、鳥たちを見る楽しみの尽きない観察地にかわりありません。

《 観察種の変化など 》

カモの間はカウント調査において、明らかに減ってきています。トビ、キジ、バン、ヒバリ、ビンズイ、タヒバリ、アカハラ、シロハラ、トラツグミ、カシラダカなども見られる割合は減少しています。一方カワウ、アオサギ、オオタカ、カワセミなどは増加の傾向といえるでしょう。シラコバトの観察回数は少ないのですが、周辺に足を延ばすことで見られます。探鳥会での観察種数は77種ですが、周辺に足を延ばすことで年間100に近い種を楽しむことは十分可能です。

さあ、あなたも図鑑を片手に双眼鏡を持って、デジカメも必携品でしょうか、史跡のさきたま古墳公園にでかけてきませんか。

「さきたま史跡の博物館」(入館料50円、65歳以上は無料)にも寄って、金錯鉄銘剣や埴輪も見て、周辺の古墳・文化財マップも手に入れると楽しみ倍増ですよ。

《 アクセス 》

JR高崎線行田駅、秩父線行田市駅から市営の循環バス利用で「さきたま古墳前」下車が便利です。ただ便数が少ないので確認(行田市のホームページで検索可能)が必要です。

車では国道17号から武蔵水路沿いに行くのが判りやすく、また健脚の方は北鴻巣駅からぶらり「さきたま緑道」(約5km)を歩いてみてはいかがでしょうか。

さきたま古墳公園とその周辺で観察された野鳥（探鳥会を中心として）

(1993/2月の初回以降、2006/10月まで)

種類		春	秋	備 考	種類		春	秋	備 考
1	カイツブリ	◎	◎		53	ハクセキレイ	◎	◎	
2	カワウ	◎	◎		54	セグロセキレイ	○	◎	
3	ゴイサギ	△	△		55	ビズイ	○		
4	ササゴイ			▲夏	56	タヒバリ	△		
5	アマサギ			◎夏 武蔵水路横田圃	57	ヒヨドリ	◎	◎	
6	ダイサギ	○	○		58	モズ	◎	◎	
7	コサギ	◎	◎		59	ヒレンジャク	▲		
8	アオサギ	○	○		60	コルリ			△春
9	マガモ	◎	◎		61	ルリビタキ			▲春
10	カルガモ	◎	◎		62	ジョウビタキ	◎	◎	
11	コガモ	◎	◎		63	ノビタキ			▲秋
12	トモエガモ	▲			64	トラツグミ	▲		
13	オカヨシガモ	△	△		65	クロツグミ			▲春
14	ヒドリガモ		△		66	アカハラ	△	▲	
15	アメリカヒドリ			▲冬 県浄水場・貯水池	67	シロハラ	△		
16	オナガガモ		△		68	ツグミ	◎	△	
17	シマアジ			▲冬	69	ウグイス	◎	○	
18	ハシビロガモ	△			70	オオヨシキリ	▲		4月
19	ホシハジロ	▲	▲		71	メボソムシクイ			○春
20	キンクロハジロ			○冬 県浄水場・貯水池	72	エゾムシクイ			△春
21	ミコアイサ			▲秋	73	センダイムシクイ			○春
22	トビ		△		74	キクイタダキ	▲		
23	オオタカ	○	○		75	セッカ	▲		
24	ハイタカ	▲	▲		76	キビタキ			○春、秋
25	ノスリ		△		77	オジロビタキ			▲冬
26	ハヤブサ		▲	△ 古墳北方の工業団地	78	オオルリ			○春
27	チョウゲンボウ	△	○		79	サメビタキ			△秋(10月初旬)
28	コジュケイ	△	▲		80	エゾビタキ		▲	○秋(10月初旬)
29	キジ	△	▲		81	コサメビタキ		▲	
30	バン	△	△		82	サンコウチョウ			▲夏、秋
31	コチドリ	▲		元荒川	83	エナガ		▲	
32	ムナグロ			△春 武蔵水路横田圃	84	コガラ		△	
33	タゲリ			○冬 古墳北辺の旧忍川	85	ヒガラ	▲	△	
34	イソシギ	▲		元荒川	86	ヤマガラ	△	○	
35	タシギ		▲	○冬 古墳北辺の旧忍川	87	シジュウカラ	◎	◎	
36	コアシサシ			△夏 県浄水場・貯水池	88	メジロ	◎	◎	
37	シラコバト	▲	△		89	ホオジロ	○	◎	
38	キシバト	◎	◎		90	カシラダカ	△		
39	アオバト			▲春	91	アオジ	◎	△	
40	カッコウ			○夏	92	クロジ			▲春
41	ツツドリ		△		93	オオジュリン		▲	
42	カワセミ	○	◎		94	アトリ	△		
43	アリスイ		▲		95	カワラヒワ	◎	◎	
44	アオゲラ		▲		96	マヒワ		▲	
45	アカゲラ	△	△		97	イカル		▲	
46	オオアカゲラ			▲冬	98	シメ	◎	○	
47	コゲラ	◎	◎		99	スズメ	◎	◎	
48	ヒバリ	◎	○		100	ムクドリ	◎	◎	
49	ショウトウツバメ			○秋	101	カケス	◎	◎	
50	ツバメ	○	▲		102	オナガ	△	△	
51	イワツバメ			△春	103	ハシボソガラス	◎	◎	
52	キセキレイ	△	○		104	ハシブトガラス	◎	◎	

出現頻度 ◎・・・多 ○・・・中 △・・・少 ▲・・・極めてまれ、1回

そのほか*：探鳥会以外の日々、渡りの時期、カモ類調査、下見の時などで古墳公園とその周辺で観察された鳥です。

密対連シンポジウム出席報告

福井恒人(さいたま市・県鳥獣保護員)

12月2日(土)、3日(日)の2日間、群馬県渋川市伊香保町で開催された第14回野鳥密猟問題シンポジウムに、埼玉県支部から派遣されて出席しました。2日間で70名以上の参加、今回のテーマは「野鳥は飼えません」。

[群馬県警による取締り事例] 平成15年4月改正施行された鳥獣保護法の時効に関する条項を初めて適用して、メジロ・オオルリなど43羽を保護して放鳥。違反者には執行猶予つきながら懲役1年の重い判決。各県警察から捜査手法等についての問い合わせが多く、その後の取締まりのリーディングケースとなった。

[群馬県行政担当者の報告] 平成7年に群馬県野生鳥獣違法捕獲防止対策連絡会議を設置。県、県警本部、鳥獣保護員、各市町村・野鳥の会群馬県支部・猟友会で構成。地区連絡会議もあり、相互に連携。違法捕獲や違法飼養の防止に当たっている。

[愛知県内の鳴き合わせ会摘発事例] 東京の人間が参加していたことから東京警視庁による手入れが行われた。4人逮捕、9人書類送検、ウグイスなど11種120羽押収。

[東京都岩崎鳥獣保護管理係長の報告] 人の手によって自由を奪われ、命を絶たれる野生鳥獣を守る事、これが真の鳥獣保護であり、担当する行政の役割である。都道府県によって密猟行為に対する取り扱いがあまりにも違いすぎる。鳥獣保護法は全国同じはずだが、違法行為に真剣に取り組まない行政機関・警察もある。驚くばかりだ。密猟も許せないが、やるべきことをしない行政も許しがたい。東京都では、平成15年度から警視庁と連携、手入れ約350件、検挙者約200名、押収した野鳥2530羽に及んでいる。

そのほか、環境省の報告(輸入鳥に足輪の装着義務化、飼養が許可されるのはメジロだけになった)、野鳥の会本部自然保護室長古南氏による全国一斉野鳥販売実態調査報告(2000年から2005年で国産同種141種、10844羽)、山階鳥類研究所茂田氏によるオオルリ・キビタキの識別講座などがありました。

フクロウの声の記録

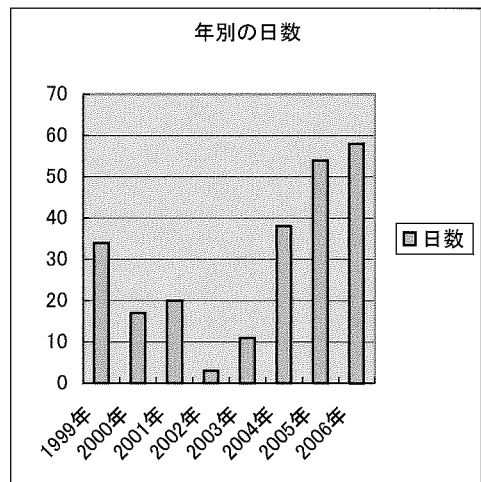
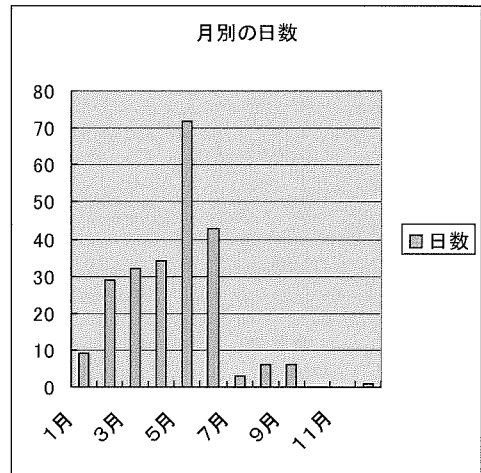
新井哲夫(比企郡)

昨年の11月号に『アオバズクの声の記録』を投稿しました。今回は、同様に、自宅付近で過去8年間にフクロウの声を聞いた日数(235日間)を月別と年別のグラフにしてみました。

月別から、フクロウは、2月から6月にかけてよく鳴き、5月に最も多く鳴く事が分かりました。10月と11月には鳴き声を聞きませんでした。

年別では、2002年にわずか3日しか聞きませんでしたでしたが、2004年からよく鳴き出し2006年には58日も鳴きました。

また、このあたりでは、フクロウの声を「テレック、ゴーヘー」と聞きなしています。





野鳥情報

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇10月9日、自宅脇の水路でカワセミ♂1羽、飛んできて土管にとまる。ノシメトンボをくわえていた。魚と同じように首を振って何度も打ちつけるので、頭がとれそうになっていた。羽のついたまま飲み込む。カワセミがトンボを食べるのを初めて見た（藤原寛治）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇11月6日、アシ原でカシラダカ初認、まだ夏羽が残っていた。11月7日、元荒川で採餌したり、休んだりするハマシギ冬羽1羽、ここで見るのは初めて。アカゲラ1羽。11月9日、ベニマシコ♂1羽♀1羽初認。アカゲラ1羽、セグロカモメ成鳥1羽。11月13日、アオゲラ♂1羽、ここでは数年ぶり。尾羽のないカケスが林内を飛ぶ。元荒川でカワセミがホバリングから飛び込み、見事、小魚を捕えた。対岸で動く姿、シラコバト！ 久し振り。その他カワウ、カイツブリ、イソシギ、イカルチドリ、マガモ♂1羽、モズ、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、アオジ、シメ、ベニマシコ（声）、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキなど計34種。11月16日、アオゲラ、アカゲラとも声のみ、ユリカモメ3羽初認、ヒガラ1羽。「フィ、フィ」の声にまさかと思いつつ、口笛で呼んだらウソ♂1羽♀2羽が枯野に降り、キク科の雑草の実を食べ始めた。ビックリ。オオジュリンの声、ツグミがどっと増えた。計36種確認。11月17日、ウソは7羽位いそう。他にアカゲラ♂1羽、イカルチドリ3羽など。11月20日、ウソ♂3羽♀2羽+数羽か？ アカゲラ♂1羽、久し振りのキセキレイなど32種。11月21日、ウソ♂3羽など8羽ほど。マヒワ1羽上空飛翔。11月25日、胸が赤っぽいウソ♂確認、アカウソと判断。11月26日午前、奥の木にとまる4~5羽、シルエットからカワラヒワと思い、双眼鏡で見たら、下面が赤い。雨覆いから風切にかけては茶褐色に縦じまがある様子。背を向けている個体の腰はく

つきり赤い。何だかわからないのでプロミナを取りに行き戻ってきたときはいなかった。後日、川口市差間でオオマシコが出たと聞き、合点がいった。オオマシコの群れ！ その他アカウソを含むウソ約15羽を初めカワウ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、セグロカモメ、ユリカモメ、アカゲラ、モズ、ルリビタキ♀、ジョウビタキ♂♀、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ、アオジ、ホオジロ、シメなど計39種。11月27日、アカウソを含むウソ約20羽、あちこちにばらけ、モゾモゾ嘴を動かしてカナムグラの実を食べる。ベニマシコ♂1羽、アリスイの声。元荒川で珍しくホシハジロ♀1羽。12月1日、ウソ、ベニマシコ♀1羽、キセキレイ1羽、ヒガラ1羽など。12月2日、アカゲラ♀1羽、ルリビタキの声。12月3日、ウソ、ベニマシコ♂1羽♀1羽、アリスイの声、アカゲラなど。12月5日、ウソ、アカゲラ♂1羽、ベニマシコ。久し振りのオオタカ成鳥、藪に突っ込むも、狩り失敗（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区本町1丁目 ◇11月29日、カラスの声にふと見上げると、街中でノスリ1羽が舞っていた（鈴木紀雄）。

久喜市昭和沼 ◇11月30日、トモエガモ♂1羽、オナガガモ、マガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ハシビロガモ、オオバンなど（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区鹿室、白岡町太田新井、春日部市内牧の境界辺り ◇11月26日午後2時頃、水と緑のふれあいロードの起点近くでウソ♂3羽♀5羽が枯れた梢の先にとまり、曇り空だったが、順光のためしばらく観察することができた。その他、別の木には、ツグミが鈴なりでした。今年は小鳥の種数が多い（石川敏男）。

蓮田市黒浜 ◇11月17日、東埼玉病院内でアトリ2羽、ヒガラ1羽、アカゲラの声、シロハラ、シメ、ヤマガラ、カケスなど。ツグミ多し。11月20日、同所でムクノキに群がるツグミ類などを見ていたら、アオバト♀1羽も実を食べていた。11月5日に見た



アオゲラ(鶴飼喜雄)

のと同個体か。◇11月24日、東埼玉病院でウソ♀3羽、♀は初めて見たので感激。カシラダカ4羽+、ウグイス、メジロ、アカハラ1羽、コゲラ2羽、カケス9羽+、コジュケイ1羽+、ウズラ2羽。シジュウカラ、アオジ、ツグミ及びヒヨドリ多し。11月25日、同所でウソ♂♀ほぼ同数の群れを5回見た。♂♀ともそれぞれ5羽+。至近距離から見たのは初めて。カケス、メジロ、アオジ、シジュウカラ、ツグミ及びヒヨドリ多し。ウグイス、コジュケイ、アオゲラ1羽、コガラ1羽、コゲラ2羽、カシラダカ3羽+、シメ1羽+、シロハラ1羽初認。12月1日、カケス、ツグミ、アオジ及びヒヨドリ多し。同所でヒガラ1羽+、ウソ♂1羽♀1羽。メジロ、シジュウカラ、カシラダカの群れ。ウグイス、コゲラ2羽、コジュケイ。12月7日、同所でカケス、アオジ及びシジュウカラ多し。ホオジロ、カシラダカ、メジロ、ウグイス、アオゲラ♂1羽、コゲラ、ジョウビタキ♀など(本多己秀)。

北本市石戸宿 ◇11月25日午前、自然観察学習センターの北西側でウソ初認。5~6羽の群れで蔓草などの実を食べていました(立岩恒久)。

菖蒲町小林 ◇11月30日、ニューナイスズメ10数羽がスズメ、カワラヒワとともに電線にとまったり、耕作地で採餌したりしていた(鈴木紀雄)。

春日部市谷原親水公園水鳥の池 ◇12月3日午前10時30分過ぎ、体育館ウイングハット

に隣接、東側でカワセミ。斜めになったヨシの枯れ枝にいつの間にも♀1羽、飛来した。池面は掘り下げた遊水地でもあるため、土手から見下ろすことができ、背から腰にかけてのコバルトブルーは鮮やかでした。他にセグロセキレイは常時生息している(石川敏男)。

渡良瀬遊水地 ◇11月14日午後4時頃、チュウヒ数羽、この5~6年で随分減少した感じ。ミサゴ1羽。夕刻、コチョウゲンボウ4羽位、高速でアシ原を飛んでは、灌木にとまる。ハイロチュウヒ♂1羽♀1羽(鈴木紀雄)。

坂戸市入西 ◇11月29日午前10時頃、こはるが池近くの高圧電線鉄塔に、ハヤブサ1羽がとまっていた(増尾隆)。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇11月30日、「フィーフィー」と鳴きながらウソ4羽が上空を飛ぶ。12月3日午前10時15分頃、ウソ♂1羽。12月13日午前9時頃、ウソ♂1羽♀1羽。水路脇高木のエノキに止まり、小さい実をついばんでいた。他のウオッチャーによるとアカウソも見たそうです。このまま春までピオトープ内に居つくだらうか。他にベニマシコ♂1羽。セイタカアワダチソウの種をついばみ、順光で鮮やかな「赤い鳥」に感激(増尾隆)。

熊谷市みいずが原遊水池 ◇11月26日、100m四方の貯水池にトモエガモ♂3羽。他にカモ類10種、約300羽。金網越しなので味気ないが、識別練習には最適(新井巖)。

川越市寺尾調節池 ◇12月2日、アリスイ、タシギ、タヒバリ(豊寫実・登志子)。◇12月13日、アリスイ、ベニマシコ♀、オオジュリン(藤掛保司・宮子)。◇12月16日、キジ♂♀、カワセミ、ノスリ(中間一郎・清美)。

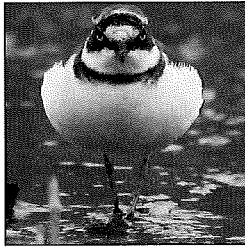
表紙の写真

スズメ目メジロ科メジロ属メジロ

おっ、くちばしが黄色！ 新種キバシメジロ……ではありません。花粉がついているだけです。 蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内



コチドリ

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月4日（日）

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼（一）、榎本（建）、青木、鬼塚

見どころ：3月にもなると木々の芽もふくらみます。枯れたアシの間隙も広がり、中にあるホオジロやアオジなどの姿がよく見えるようになります。ウグイスのさえずりの練習も期待しながら、農村の風景をのんびりと味わいましょう。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月4日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道熊谷8:51発に乘車。



カケス

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般100円、会員と中学生以下50円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

解散：鉢形城址

担当：井上、喜多、後藤、大澤、小池（一）、堀口

見どころ：水ぬるむ荒川の河原に下りて水鳥をチェック。ヤマセミはいないかな？ 続いて鉢形城址まで歩き、猛禽はいないかな？ 一緒に春を感じながら歩きましょう。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：3月10日（土）

集合：午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:03→久喜8:24着で、東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34発に乘車、花崎8:41着。徒歩約10分。

担当：長嶋、中里、玉井、宮下、四分一、栗原、植平、鬼塚、内田、長谷川

見どころ：初心者歓迎。冬鳥たちは長旅の準備を整え無事に旅立てたでしょうか。気の早い夏鳥は季節の変化を敏感に捉え、今年もすでに来ているでしょうか。芽吹き始めた公園で、そんな鳥たちを探して見ましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月11日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乘車。

担当：島田、和田、後藤、森本、中里、大澤、

倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、
新井(巖)、千島、鶺鴒

見どころ：梅の花、桃の花、足元にはタンポ
ポの花。見上げる大空のキャンパスには
オオタカ、ノスリが舞う。ちよっぴり冷
たい春風に吹かれて土手を歩きましょう。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月11日(日)

集合：午前8時15分 JR大宮駅東口「こりす
のトトちゃん」像前。または午前9時15
分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、松村、浅見、渡辺(嘉)、
赤堀、新井(勇)

見どころ：季節の移ろいを鳥たちで追うと、
あつと言う間に1年が過ぎてしまいます。
まだ冷たい春の風に吹かれながら、渡去
前の冬鳥や、気の早い夏鳥を探して見沼
田んぼを歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前9
時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、
小菅、赤堀、新部、青木、宇野澤、増田
見どころ：見沼田んぼはコブシ、モクレン、
レンギョウの花盛り。今年は暖冬だった
ので、代用水の桜も見られるかな。冬鳥
と夏鳥の交差する三室へどうぞ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月18日(日)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:13→坂戸で越生線乗
り換え8:42発。または寄居7:53→小川
町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR
川越線大宮7:53→川越で東武東上線乗



ノスリ

り換え。

担当：藤掛、高草木、久保田、志村、増尾、
杉原、原、藤澤、持丸、林、高橋(優)、
青山、山田(義)

見どころ：ウグイスの美しい声であなたを迎
えてくれる高麗川。清流沿いをカワセミ
やセグロセキレイを見ながら散策しませ
んか。素晴らしい出会いがあるかもしれ
ません。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月21日(水・祝)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車
場付近。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バス
乗り場から、エローラ行き8:50発バスで
「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、吉岡(明)、
榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、土澤

見どころ：公園周辺の住宅開発が進み、公園
にも農耕地にも、野鳥がめっきり少なく
なりました。特にシラコバトは絶望的な
状況です。でも北へ帰る鳥たちが、お別
れに顔を見せてくれるでしょう。ヒバリ
のさえずりを聞きながら草花の色と香り
をたどって、ノンビリ歩くのもオツなも
のです。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：3月21日（水・祝）

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:15発、8:41発（急行）、
寄居8:48発、9:02発（急行）。

担当：井上、佐久間、小池（一）、青山、大澤
堀口

解散：宝登山山頂

見どころ：昨年は冬鳥に振られてしまい残念
でしたが、今年はどうでしょうか。吉と
出るか凶とでるか、どちらになっても山
頂での気分は大吉です。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月24日（土）

集合：午前9時15分、東武日光駅前。

交通：東武伊勢崎線春日部7:44発「快速」日
光行き、栗橋7:55→板倉東洋大前で8:10
発「快速」日光行きに乗り換え、東武日
光9:15着。

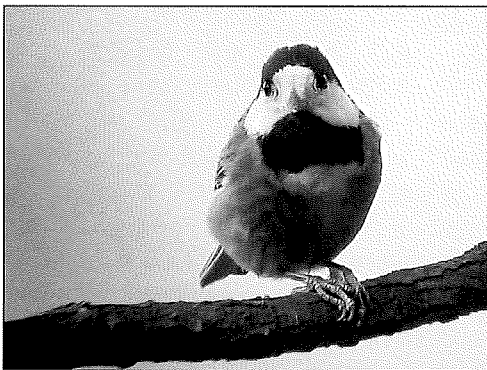
解散：午後2時ごろ神橋付近にて。

担当：玉井、福井、中里、田中、植平

見どころ：川沿いの緩やかな登り道を、カワ
ガラス、ミソサザイ、山の鳥たちを探し
ながら歩きます。2年続けてクマタカが
姿を見せてくれていますが、今年はどう
でしょうか？ きっと楽しい1日になり
ますよ。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月25日（日）



ヤマガラ

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36
発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山
本（真）、久保田、石光、山田（義）、山口
見どころ：恒例、ツバメとカタクリを見る探
鳥会。冬鳥、夏鳥の両方が楽しめるお
得な季節。春先にしか見られない草花
もあるので、空を見たり地面を見たり
大忙し。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月25日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博
物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行
田車庫（佐間経由）行き8:50発で、「産
業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、大坂、立岩、栗原
見どころ：吹く風、ぬるむ水、芽吹く梢に春
が実感として感じられる季節。冬鳥のア
ンカーと夏鳥のトップランナーにうまく
出会えるでしょうか。暖かかった冬のお
かげで花も人もにぎわいそうな予感。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月31日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前、
または午前8時30分、中央エントランス
駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35
→栗橋7:55→柳生8:05着。またはJR宇
都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で、東武
日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、
中里、植平、鬼塚

見どころ：干上げ後の谷中湖はどうでしょ
うか、国交省は昨シーズンまで3年間実施
していた調査を、水鳥に影響ないとして
打ち切ったとのこと。自分たちの目
で確かめるしかありません。アシ焼き後
の大地に春の息吹を野鳥たちとともに感
じましょう。



行事報告

11月5日(日) 志木市 柳瀬川

参加：44名 天気：晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ
マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ チョウ
ゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト
カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メ
ジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ ス
ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラ
ス(34種) まず柳瀬川のカモを見てから、今季初
認のツグミ、セキレイ類を見ながら土手を歩き、
チョウゲンボウ、ジョウビタキも観察。イカルチ
ドリも50羽以上まとめて見られた。(佐久間博文)

11月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：48名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ ノスリ キジ
バン オオバン キジバト カワセミ アカゲラ
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
ス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ
カ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ ス
ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラ
ス(31種) 大麻生駅から明戸堰に向かったが、風
が次第に強くなり、コースを押切河原へと変更。
途中、キジやノスリが出現。河原近くでツグミが
数十羽またカシラダカも姿を見せる。最終地点で
は、バンやオオバン、カワセミ、またベニマシコ
が姿を見せ、楽しく終了。(後藤康夫)

11月12日(日) さいたま市 秋ヶ瀬自然観察会

参加：22名 天気：快晴

マガモ カルガモ トビ カワセミ コゲラ ヒ
ヨドリ モズ ジョウビタキ ヒガラ ヤマガラ
シジュウカラ カワラヒワ マヒワ ハシブトガ
ラス(14種) 木枯らし一番。荒川堤防から真っ青
な空に雪を頂いた富士山が眩しく光っている。昨
秋とは異なり当地の「野菊」の個体数は急減。ユ

ウガギク、ノコンギク、カントウヨメナが寂しく
最後の花を付け、タカアザミやキンミズヒキが往
く秋を惜しむかのように咲き、タコノアシの草紅
葉が眩しい。10月から枯れ始めたヨシには花や実
を付けた個体はほとんどない。近年、当地の草本
は毎年目まぐるしく変化している。トウカエデや
シダレヤナギなどの外来樹木が勢力を上げ、ピク
ニックの森の本来の姿であるハンノキーゴマギー
ノイバラ湿性林の植生構造が激変していることは
間違いない。(小荷田行男)

11月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

浅見徹、新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、
尾崎甲四郎、佐久間博文、千野安以、増尾隆、松
村禎夫

11月19日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加：42名 天気：曇後雨

ダイサギ アオサギ イカルチドリ キジバト
カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(29
種) 今にも降り出しそうな天気。菅谷館ではカラ
類、コゲラ数羽が桜の幹を盛んについついているの
が観察できた。ほたるの里では、数十羽のツグミ
やシメ、カラ類の混群、都幾川沿いでは、イカル
チドリ、カワセミ、キセキレイ等が出現。雨のた
め早めに終了したが、29種を観察。(後藤康夫)

11月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：29人 天気：曇一時雨

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ
カルガモ コガモ クイナ バン イソシギ キ
ジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレ
イ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオ
ジ カワラヒワ シメ ウソ スズメ ムクドリ
カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ
ス(33種) 雨の予報もあって、参加者はいつもよ
り少ない。しかし、三室はリーダーだけでも10名
と多く、他の参加者もみんな親切なので初心者に

は嬉しい探鳥会になった。斜面林にウソが久しぶりに出現して全員が喜んだ。(楠見邦博)

11月23日(木、休) さいたま市 見沼自然公園
参加：47名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 開始早々カラ類の混群に出会い、その中に当地では珍しいエナガが観察され、一同感激する。斜面林や雑木林にまだ紅葉が残っていて、静かな見沼田圃を満喫できた。鳥合わせでは44種を数え、林、田圃、水面とバランスよく展開する見沼田圃の素晴らしさを感じた。(工藤洋三)

11月23日(木、休) 春日部市 内牧公園
参加：25名 天気：曇

カワウ ダイサギ コサギ チョウゲンボウ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 当地の探鳥会で初めて30種をクリアした。万歳！ 今冬はツグミの飛来数が多く、また、ヤマガラを始め、小鳥類も多い。ヒガラは当地探鳥会初記録と思う。次回1月が期待される。お父さんと参加した野鳥にすごく興味を抱いている元気な小学生に「○○は出ないの？」などと煽られて、とても緊張した。(石川敏男)

11月26日(日) 本庄市 坂東大橋
参加：31名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ バ

ン オオバン キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 朝の寒さも徐々に緩み風もない探鳥日和。牧草地、葦原を冬の小鳥を順調にゲットしながら進む。ベニマシコが数羽出てくれて盛り上がり、途中の池でバン、オオバンを観て河原に着くと、あらら！ 本日のメインのカモがいない。「昨日はミコアイサもいたのに」とぼやきつつ、遙か彼方の一群目指してさらに移動。種類も数も少なかったがきれいなヨシガモを観たから良しとしよう。(新井 巖)

11月26日(日) 蓮田市 黒浜沼
参加：56名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ クイナ バン オオバン キジバト カワセミ アリスイ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 先ずオオタカとチョウゲンボウが姿を見せ、ウソも2回現れて参加者の大部分が見ることが出来て大喜び。加えてアトリや定番の鳥たちも切れ目なく現れて十分に楽しめた。数人だったがアリスイも見つけ、終わってみれば黒浜での記録を大幅に破る46種であり、参加者の皆様に感謝の探鳥会であった。(玉井正晴)



黒浜沼探鳥会にて



●鳥インフルエンザで野鳥を怖がる必要はありません

野鳥、特に水鳥と称されるガン類やカモ類は、鳥インフルエンザのウイルスを普通に持っています。ただし、野鳥が持っているものは低毒のウイルスで、重症な病気にはなりません。

世界的に見ても、野鳥から人へ鳥インフルエンザが感染した例はこれまでにありません。鳥インフルエンザは、高病原性のものであっても人へは感染しないのです。ウイルスへの適合性がある蛋白質の種類が鳥と人では違うためです。

アジアでは、鳥インフルエンザがニワトリから人へ感染して人命が失われています。これらの感染例は、飼っていたニワトリのフンの粉塵を吸い込んだり、食用に処理する時に鳥の血液を浴びるなどして、ウイルスを多量に取り込んでしまった特殊な例と考えられています。

庭の餌台に来る小鳥、川や池のカモ、ベランダのハト、ゴミ置き場のカラス、軒先のツバメなど野鳥は身近にいますが、普通に人と野鳥が接している限り、感染につながる大量のウイルスの取り込みはまず考えられません。そのため世界的にも野鳥から人への感染は発生していないのです。

渡り鳥が鳥インフルエンザを運んでいるのかどうかを明らかにすべく、世界各地で広範囲な調査と研究が進められています。野鳥がウイルスを遠い地域まで運ぶ可能性があることは分かってきました。しかし、渡り鳥が通る経路に沿って、鳥インフルエンザで犠牲となった野鳥が発見されたことは世界的にありません。

庭やベランダに餌台を置いて野鳥を招くことも、心配はありません。ただし、鳥たちの健康のためにも、餌の食べ残しやフン、水などが溜まったままにならないように、清潔に管理し

ましょう。できるだけ毎日掃除して、掃除の後には石鹸で手を洗ってください。

野鳥が一所でたくさん死んでいたら、何か特別な原因の可能性があります。これまでに、農薬などの薬物によるものや、汚染された餌や水による食中毒のようなケースが知られています。もしたくさん野鳥が死んでいるのを見つけたときは、触らないで、お近くの警察、家畜保健衛生所、保健所に連絡してください。(支部ネット通信 2007 年 2 月臨時号 No. 41 から抜粋。詳しくは本部の HP をご覧ください。)

●事務局の予定

- 3月3日(土) 編集部・普及部・研究部会議
- 3月10日(土) 4月号校正(午後4時から)
- 3月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)
- 3月18日(日) 役員会(午後4時から)

●会員数は

2月1日現在 2,260 人です。

活動報告

- 1月13日(土) 2月号校正(海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次)。
- 1月21日(日) 役員会(司会:浅見徹、鳥島獣保健員として、福井、小荷田両名を再任推薦する件・その他)。
- 1月22日(月) 2月号を支部報だけ会員向け発送(倉林宗太郎)。

編集後記

表紙やカット写真は、特定の人にかたよることなく、できるだけ多くの方の作品を使わせて頂きたいと考えています。最近同じ様な構図で掲載された写真、掲載が多い種の写真は順位が低くなります。対象が画面の真ん中に写っているいわゆる「日の丸構図」の写真より、画面全体に目が行き届いていて、季節感が感じられる写真が高順位になります。ただし、行事案内欄の小さな写真のような場合は、選ぶ基準が少し違ってきます。(海)

しらこぼと 2007 年 3 月号 (第 275 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社